

令和6年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第3回「まちをきれいにしよう！」（テーマ：ごみ）

□実施日時 令和6年8月1日（木）10時00分～15時00分
□実施場所 上野恩賜公園付近
□受講者数 7名
□実施方法 対面
□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明

2. 講師からの講義・体験

講師：NPO 法人自然環境アカデミー 野村亮氏、谷村春樹氏

（1）事前講義

○環境学習のポイントとごみ拾いのたいせつさについて

ごみ拾いは実施するのに道具やお金が必要でないため、すぐに学校で導入できる環境教育の方法の一つ。

児童はすぐにごみ拾いの中から問題点を見つけその解決策を考える。先生は解決策を実施する中で、生徒たちだけではできないことをフォローすることが大切である。フォローするためには、地域の人や学校の先生、近くの会社の人などいろいろな人と交流を持つことが重要。学校と地域のつながることで、活動の幅が広がるだけでなく児童が社会の一員としてどう動くことができるのか、考えることができる。

○川のごみひろい

場所が変わるとごみの種類も変わる。小学校教員向け環境教育研修会第2回の実習を行った多摩川は、排水が混ざっている場所もあれば、陸のごみが雨で流されたものなど様々だ。その川の位置や、下水処理や配管の位置などで変わってくるので調べると面白い。

また、今回の上野公園と違って川の周りは人気のないところも多い。そのため、家財道具一式を置いて行ってしまうなどの、都会では見られないごみもある。ごみの種類だけでなく、拾っている場所はどのようなところか調べることも探求につながる。



(2) 体験活動

①ごみ拾い

不忍の池付近へ移動し、トングを使用してごみを採取した。

木陰やその周りの吸われそうな場所のごみが非常に多かった。「出店もあるので、休憩しながらごみを捨てているのではないか。」と参加者から意見が出た。

また、ほとんど表に出ているごみが多く、「隠す、隙間に入れるなどが無いので、悪意が無く捨てているのではないか。」という意見も出た。



②採取したごみの分別と観察

採取したごみの分別を行った。

ビニールの多くは汚れていたため、ほとんどが燃えるごみであった。ごみの多くは生活用品ではなく、飲み食いした空き袋や、空き缶とその際に吸ったであろうたばこであった。また、缶のプルタブもたくさん落ちており、缶の方は陸では見られなかったが池に大量に捨てられていることが岸から見てわかった。



③グループワーク・情報交換会

採取や分類をする中で気づいたこと、授業として取り組む際の課題等についてディスカッションや意見交換し、班ごとに発表した。

(質疑応答及び受講者同士の意見発表)

- ・学校での取り組みや体制が違うので、話を聞いてとても勉強になった。
- ・池の周りに喫煙所を作ったら減るのではないかと。思う一方で、ごみ箱があるのに池に捨てている人は喫煙所があっても使うのか？という疑問も出た。
- ・人がたくさんいるのにごみを捨てている。人の目があっても関心がないと意味がないのだと思った。
- ・地域によって異なるので、ごみの処理について気になった。



（実施例や課題に対する講師からのアドバイス）

・児童はごみを拾いながら、自分の町、学校、地域を好きになっていく。郷土愛が深くなっていく。だから町をきれいにしたいという心が生まれる。今回は、住んでいる人が少なく、観光客が多い町だったために郷土愛を持つ人が少ない。このような地域ではどうしたらいいかお題として出しても面白い。

◎アンケート記入等（事務局） アンケート提出後、解散